

# 心にくじく「<sup>だけん</sup>駄言」は、暮らしの中にあふれている！



～『#駄言辞典』から考える そのとき、あなたはどう対応する？～

**日時** 10.28(土) **主催** 公益財団法人松山市男女共同参画推進財団・公益財団法人えひめ女性財団

**第1部 基調講演** **講師** 『日経xwoman』副編集長、  
『早く絶版になってほしい#駄言辞典』編集者 **小田 舞子さん**

駄言とは造語で、「男なのに育休取るの?」「女性だからそんなに頑張らなくていいよ」など、無意識の思い込みによって生まれる言葉のことを言います。駄言を無くし、自分らしく生きるためにはどうすればよいか、一緒に考えました。

## どうして駄言は生まれるのか？



### ①「アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)」があるから

普段の生活で「男だから、女だからこうあるべき」「こうするのが普通」など、相手や自分に対する決めつけや押しつけが生まれてしまっている。

### ②「上位者によるハラスメント」があるから

年上の人や年下の人へ、職位が上の人から下の人へなど、自分より弱い立場の人に攻撃的な言葉を口にするのも原因の1つ。

### ③「歴史的背景や社会構造」による影響

戸籍法(明治4年)、旧民法(明治31年)で家制度が作られ、結婚すると女性が男性の家に入り、家庭内の決定権は男性が持つというような法律が制定された。このような歴史的背景が男性優位社会をつくった。

### ④「共働き世帯」が増えたから

共働き世帯は増加したが、国のルールを作る人や会社のトップは専業主婦世帯の夫であることが多い。そのため、日々考えていることや価値観が市民とトップの人との間で乖離してしまっている。

上記①～④のような背景が駄言を生む要因になっている。

駄言を無くすためには、知識を得たり、想像力を養ったりすることも大切。

また、時代の流れによって、以前は駄言と思われていなかったものが駄言と思われるようになることもあるので、意識をアップデートしていくことも必要。



## 駄言を言われた時、どうしたら良い？

### • なぜ自分が駄言と感じたかを考える

自分が駄言と思っている言葉でも、他の人は駄言だと思わない場合がある。

自分が駄言だと思ったということは、自分が大切にしている価値観を傷つけられたと感じていることなので、自分と向き合う機会でもある。

### • 駄言が生まれた背景を考える

相手がどうして駄言を言ったのか、どういう環境でそう考えるに至ったか想像する。

受けてきた教育によるものかもしれないし、周りからそう言われて育ってきたからかもしれない。

また、自分が他の誰かに駄言を言っていないか振り返ってみることも必要。

### • どう対応するか考える

自分の思いを相手に伝えるのか、相手と距離を取るのか、それともその環境を抜け出すのか、

状況によって判断していくことが求められる。

## 駄言を言わないための4つのコツ

1. 自分の意見を押しつけないー心の中で思うことは自由だが、あえて言う必要はないー
2. 幅広い相手と話す
3. 「それは駄言ですよ」と言い合える関係性を築く
4. 駄言をきっかけに話し合うー「それ駄言ですよ！」と試みようー

## ◆—— あなたも聞いたことがあるかも！？ # 駄言辞典より ——◆

- 男なんだから黙って働けよ
- 今年の新入社員、男だから多少厳しくいっても大丈夫でしょ
- 父親なのに休日出勤できないなんて、家庭に何か問題があるんじゃないか？
- 育休明けに居場所がなくなっていないといいね



- ちょっと華を添えに来て
- 女性が淹れたお茶はおいしい！
- 女性が多い職場ってもめ事が起きやすそう
- 俺の方が稼いでいるんだから、おまえの家事比率が高いのは当然



褒めているつもりでも、相手から駄言と受け取られている場合もあります。自分も言われたり、言ったりしてしまったことがあるのかもしれない・・・

# 職場や家庭にはびこる駄言を見える化！

～「私ならどうする？」を一緒に考えよう～

## 第2部 グループワーク



第2部はグループに分かれてワークを行いました。

今までに自分が受けた「駄言」を付箋紙に書き出し、模造紙に貼っていきました。



小田さんもそれぞれのグループを回りながらお話をされ、どのグループも意見が活発に出され盛り上がっていました。



そして、書き出した駄言の付箋紙を「家」「職場」など、どこで言われたかカテゴリーに分けていきました。



ご参加のみなさんは、違う年代、職種の人と話すことでいろいろな意見に触れ、参考になったり気づきを得たりしたようです。



最後に、グループで出た駄言について各代表者が発表しました。他のグループの駄言を知ることで、さらに考えが深まったようでした。



## 早く絶版になってほしい # 駄言辞典

編集：日経xwoman / 出版社：日経BP / 出版年：2021年6月

本書は、すべての人が自分らしく生きられる社会にするために、『駄言』の「絶版」をめざしてつくられました。講座で紹介した以外の駄言も多く掲載されています。

スプツニ子！さん(アーティスト/東京藝術大学デザイン科准教授)、出口治明さん(立命館アジア太平洋大学(APU)学長)、及川美紀さん(ポーラ社長)、杉山文野さん(NPO法人東京レインボープライド共同代表理事)、野田聖子さん(自由民主党幹事長代行)、青野慶久さん(サイボウズ社長)の6人のキーパーソンがメッセージを寄せています。



コムズ2階図書コーナーで貸出しています



## 参加者の声



### 第1部 (基調講演)

20代女性

駄言がどのようなものかを知ることができたり、自分も言われたことがあると気づくことができた。

30代女性

駄言を言う人が悪いのではなく、社会構造が悪い。何を変えていかなければならないのか今回の話を聞いて見えてきました。

40代女性

自分のことを自虐的に言って安心を得ることがあったが、それは同僚の仲間に対する駄言になると知り、控えねばいけないと気づいた。

50代女性

「駄言」という言葉を初めて知りました。いろいろと考えることが多い時間でした。

60代男性

自分の世代とは違う意見に触れる事ができた。

### 第2部 (グループワーク)

50代女性

言いたいことが言いあえる空気が日本中に広がってほしいと思いました。

50代女性

いろいろな方の人生や生き方、今までの駄言を生々の声で聴けていると思うことがありました。

60代女性

いろんな職種の方と話ができてよかった。

60代男性

いろいろな意見に触れられてよかった。